

着地型観光の可能性

—北海道の観光資源を事例として—

地元である北海道鷹栖町では、少子高齢化や過疎化が問題となっている。そこで、それらの問題を解決する案として、北海道で既に盛んである観光を利用できないかと考えた。

まず、観光の形の変化について調べた。そこから、大衆向けの観光よりも、個人向けの多種多様な観光が求められていることがわかった。この求められている観光の形に、当てはまるのが、地元発信型の着地型観光ではないかと考察した。そして、北海道内では、鷹栖町のように少子高齢化や過疎化、人口減少といった問題を抱える地域が多くあること、観光が盛んに見えるが、限られた地域にしか観光客が訪れていないこともわかった。更に、観光資源の豊富な北海道では、着地型観光の効果を高める可能性があることが、全国の成功事例と比較し、確認することができた。また、年々人口増加をしている北海道東川町の観光協会にインタビューを行い、そこからも観光資源の豊富さと着地型観光の効果について明らかにすることができた。これらより、観光資源の豊富さが、着地型観光の効果を高めることを証明できた。